

【大会趣旨・歴史説明】

2003年5月、インディペンデンスリーグ（以下、略「Iリーグ」）が誕生しリーグ戦が各地域でスタートした。以後、年数を重ね今年（2015年）13年目を迎える。第11回大会より、アットホーム株式会社様の特別協賛を賜り、東北・宮城の地で開催となる。

【誕生までの背景】

1990年代より、大学体育会サッカー部所属選手数が100名を超えるようになり、公式戦に関わらない選手の活動が問題視され始めた。そして、2002年の日韓ワールドカップが開催された年に立案され、2003年にスタートしたリーグ戦である。大学生を対象とした大会は、全日本大学サッカー連盟が主催する3大会（全日本大学サッカー選手権大会・総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント・デンソーカップサッカー）の他にも各地域におけるリーグ戦など、数多くの大会が開催されている。一方で、100名が在籍する大学サッカー部において公式戦に出場できる人数は、1試合で最大でも18名であり、残りの80名を超す選手については、次の機会を待たなければならないのが現状。こうした状況の中で、多人数を抱える大学サッカー部に所属する部員（選手）の多くは、4年間の大学在籍中に一度も公式戦に出場する機会がないまま大学生活を終えることとなる。したがって、大学連盟としては、これらの状況を一刻も早く改善するために、現在の各大学の部員（選手）数及び教育的な視点から、1軍（各大学のトップチーム）を対象とした大会と異なる、より多くの大学サッカー選手に出場機会を与えることを目的とした大会である、新リーグを設立することとなる。本リーグは、「サテライトリーグ」ではない独自の「Iリーグ」という位置付けとした。

【設立趣旨】

このIリーグには、選手としての自主・自立といった意味が含まれており、選手自ら作っていくリーグであることを示している。また、サッカー人としての“サッカーマインド”をよりいっそう育み、選手一人一人が自分のプライドを賭けた戦いを繰り広げることを期待し、リーグを設立。主催者である日本サッカー協会及び全日本大学サッカー連盟は、このIリーグを開催することによって、4年間の大学在籍中に一度も公式戦に出場する機会がないまま大学生活を終える選手に対して、公式戦出場の手続きを提供し、選手自らがリーグ運営（審判・大会運営）を行うことにより、“サッカーマインド”が生まれ、今後のサッカー人生に成果として活かされることを期待した。

→大学連盟関係 ①より多くの部員（選手）に公式戦の出場機会を提供

②大学連盟として、サッカーを通じた教育への貢献

→部員（選手）関係 ①公式戦出場機会の増加

②自主運営を行うことによる、マネージメント知識の習得

③在学中における審判員資格の取得

【過去大会】

第1回大会	2003年	優勝：明治大学（関東）	準優勝：阪南大学（関西）
第2回大会	2004年	優勝：明治大学（関東）	準優勝：福岡大学（九州）
第3回大会	2005年	優勝：国士舘大学（関東）	準優勝：関西大学（関西）
第4回大会	2006年	優勝：中京大学（東海）	準優勝：国士舘大学（関東）
第5回大会	2007年	優勝：早稲田大学（関東）	準優勝：福岡大学（九州）
第6回大会	2008年	優勝：福岡教育大学（九州）	準優勝：札幌大学（北海道）
第7回大会	2009年	優勝：法政大学（関東）・福岡大学（九州）	※両校優勝
第8回大会	2010年	優勝：筑波大学（関東）	準優勝：福岡大学（九州）
第9回大会	2011年	優勝：関西学院大学（関西）	準優勝：仙台大学（東北）
第10回大会	2012年	優勝：福岡大学（九州）	準優勝：東京国際大学（関東）
第11回大会	2013年	優勝：阪南大学（関西）	準優勝：福岡大学（九州）
第12回大会	2014年	優勝：国士舘大学（関東）	準優勝：関西学院大学（関西）